

概 要

1 気象概況

1月 前半は全国的に気温が平年を下回る日が多く、後半は気温が平年を上回る日が多かった。

上旬は、気圧の谷が北日本を数日の周期で通過した。気圧の谷の通過後は、北から寒気が入って冬型の気圧配置が強まったため気温は全国的に平年を下回った。

中旬は、前半は冬型の気圧配置になりやすく気温は全国的に平年を下回って経過したが、後半は日本の南岸を低気圧が通過したため、北日本から西日本にかけて気温は平年より高くなった。15日～16日には日本の南岸を低気圧が発達しながら通過したため、関東甲信地方から東北地方の太平洋側にかけて大雨や大雪となった。南西諸島は旬を通して気温が平年より低く経過した。

下旬は、日本付近を気圧の谷が短い周期で通過したため、天気の変化は早かった。冬型の気圧配置は長続きしなかったため、全国的に気温が平年を上回る日が多かった。ただし、月末になると強い寒気が入り全国的に気温が平年を大きく下回った。低気圧や前線の影響で北日本日本海側で降水量が多く、東・西日本太平洋側では日照時間が少なかった。

2月 ほぼ全国的に曇りや雪または雨の日が多く、日照時間は全国的に少なかった。

上旬は、1日に低気圧が日本付近を通過し、北海道の東海上で発達したため、日本付近は強い冬型の気圧配置となって東・西日本の日本海側を中心に大雪となった。また、旬の終わりには低気圧が本州南岸を通過したため、太平洋側でも雨や雪が降った。

中旬は、初め冬型の気圧配置となって北・東日本の日本海側を中心に大雪となった。また、上空の気圧の谷が通過したため太平洋側でも雨や雪が降った。16日～17日にかけては太平洋側を中心に大雨や大雪となったほか、19日～20日にかけては北日本を中心に大雪となって関東地方でも雪が降った。

下旬は、冬型の気圧配置となって北・東日本の日本海側を中心に大雪となった。その後、日本付近を短い周期で低気圧が通過し、北日本では大荒れの天気となり、太平洋側でも雪が降った。低気圧通過後の旬の終わりには再び冬型の気圧配置となって強い寒気が入った。なお、23日～24日にかけては日本海から北日本を低気圧が発達しながら通過したため、23日には関東地方等で春一番が吹いた。

3月 天気は数日の周期で変わり、日本海側の地方を中心に曇りや雨の日が多かった。

上旬は、2度にわたり、東シナ海から本州の南岸を低気圧が通過し、西日本から東日本太平洋側で雪となった。通過後には南西諸島では強い寒気が入り、気温は平年を大きく下回った。旬の終わりには東・西日本を中心に移動性高気圧に覆われ、気温も上がった。

中旬は、低気圧や寒冷前線の通過にともない、北・東日本の日本海側では、まとまった量の雨や雪となった。低気圧の発達した位置が北海道の北であったことから、低気圧後面の寒気は西日本や南西諸島に入り、これらの地方では気温が平年を下回ったほか、西日本の日本海側でも降雪があった。

下旬は、日本列島付近を低気圧が頻繁に通過したため、日本海側の地方や南西諸島を中心に曇りや雨または雪の日が多かった。東・西日本の太平洋側では低気圧の通過後移動性高気圧に覆われ、晴天となった。

4月 移動性高気圧に覆われ、西日本を中心に記録的な少雨・多照となる場所があった。

上旬は、天気は数日の周期で変化した。北日本は、低気圧が通過することが多く、通過後には寒気が入って日本海側の地方を中心に曇りや雨または雪の日が多かった。一方、東日本以西では天気の崩れは小さく、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。また、南高北低の気圧配置となって南から暖かい空気が入ったため、最高気温が30以上の真夏日となる所もあった。

中旬は、初め本州南岸に前線が停滞し、全国的に曇りや雨となった。その後、北日本では短い周期で天気は変化した。東日本や西日本は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。南西諸島も中頃は移動性高気圧に覆われて晴れたが、終わりには天気がぐずついた。

下旬は、北日本は寒気を伴った低気圧の影響で日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、北海道では積雪となる所があった。東日本や西日本は、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。南西諸島は前線の影響を受け、沖縄地方では多雨となった。

5月 東日本と西日本では少雨・多照となり、北日本と東日本を中心に低温となった。

上旬は、低気圧が数日の周期で日本付近を通過し、旬の初めに西日本で大雨となった。後半は寒気の影響を受けて、北日本を中心に低温となり、北海道で積雪が観測された所があった。南西諸島は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。沖縄地方は2日頃、奄美地方は5日頃梅雨入りした。

中旬は、低気圧が数日の周期で北日本を通過した。前半はオホーツク海高気圧の影響で北日本と東日本を中心に低温となった。旬の終わりに北日本では発達した低気圧により、暴風となった。西日本では移動性高気圧に覆われて晴れる日が多く、少雨・多照となった。南西諸島では、前線の影響で曇りや雨の日が多かった。

下旬は、高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、上空に寒気を伴った低気圧の影響で、雨や雷雨となり、ひょうが降ったところがあった。旬の終わりには、関東の南東海上を通過した低気圧により、東日本の太平洋側でまとまった雨が降った。南西諸島は、前線の影響で曇りや雨の日が多かった。

6月 北・東・西日本では晴れて気温の高い日が多く、西日本を中心に記録的な少雨となった。

上旬は、初め本州南岸に前線が停滞し、東・西日本の太平洋側や南西諸島で雨となった。その後、大気の状態が不安定となって各地で雷雨となった。また、南西諸島は前線の影響で曇りや雨となった。上旬後半は日本付近は移動性高気圧に広く覆われ晴れて暑い日が多かった。上旬末には台風第4号の北上に伴って前線が北上し、10日頃には関東甲信地方と九州北部で梅雨入りした。

中旬は、初め低気圧が日本付近を通過したため全国的に雨となり、11日頃には九州南部、四国、中国、近畿、東海地方で梅雨入りした。その後、梅雨前線は日本の南に位置することが多く、太平洋側の沿岸部を除き、高気圧に覆われ晴れる日が多かった。東北南部では梅雨前線が北上した15日頃に梅雨入りした。また、南西諸島では、活発な梅雨前線の影響で、記録的な大雨となった。

下旬は、初め東・西日本の太平洋側では沿岸部を中心に雨となったが、北日本や東・西日本の内陸や日本海側では、晴れて気温の高い所が多かった。中頃は、東・西日本を中心に晴れて気温の高い所が多かった。その後、活発な梅雨前線の影響で、東北地方と東・西日本の日本海側を中心に大雨となった。

7月 東・西日本では降水量が多くなり、北日本では低温となった。

上旬は、東・西日本中心に広い範囲で大雨となった。北日本ではオホーツク海高気圧が現れた影響で気温も低くなった。南西諸島では高気圧に覆われ、気温も高かった。

中旬は、日本海側に前線が停滞し、日本海側を中心に曇りや雨の日が多かった。その後、日本付近で高気圧の勢力が強まり、前線も北上、東日本太平洋側から西日本にかけ梅雨明けとなり、気温も高くなった。南西諸島では、台風第5号が接近した先島地方では多雨・寡照、奄美地方、沖縄本島地方では少雨・多照と対照的な天候となった。

下旬は、西日本、南西諸島では高気圧に覆われ、晴れて気温も高く推移したが、北日本を中心に東海上の寒冷渦の影響を受け気温が下がった。旬半ばに台風第7号が北上、26日には千葉県（房総半島）に上陸するなど、東日本太平洋側や北日本で大雨となった。旬末には低気圧の通過に伴い雨となった。南西諸島では高気圧におおわれることが多く、ほとんど降水がなかった。

8月 西日本を中心に太平洋高気圧に覆われ、全国的に気温の高い日が多かった。

上旬は、初め朝鮮半島から東北地方に停滞していた梅雨前線は、太平洋高気圧の強まりに伴って北上し、東北南部、東北北部とも平年より遅く4日頃に梅雨明けした。全国的に太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多かった。また、南西諸島は中頃に台風第9号が接近し、大荒れの天気となった。

中旬は、西日本や北日本の日本海側は高気圧に覆われ晴れて暑い日が多かった。また、上空の寒気や南海上から暖湿流が流れ込んだ影響で広い範囲で大気の状態が不安定となり、雷雨や大雨となる日も多かった。しかし、四国地方などでは少雨が続き、渇水状況は解消しなかった。南西諸島では、前半は高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いたが、後半は天気がぐずつき、気温も平年を下回った。

下旬は、曇りや雨の日が多く、大雨となる所もあった。また、台風第11号の影響で東日本太平洋側では大荒れの天気となった。また、台風第13号は月末に先島諸島に接近し、大荒れの天気となった。しかし、四国地方などでは少雨が続き、渇水状況は解消しなかった。

9月 前線の南下や、台風第14号の影響により、記録的な大雨となった所があった。

上旬は、初め晴れて残暑が厳しかったが、中頃には台風第14号が通過したため、各地で大荒れの天気となった。台風が比較的ゆっくりとした速度で進んだため、長時間にわたって暴風、高波、大雨が続き、九州、中国、四国と北海道地方では、日雨量の記録を更新する所がある等、記録的な大雨となった所があった。また、台風周辺から本州上の秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が入ったため、4日～5日には関東地方を中心に局地的に1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降った。台風通過後は高気圧に覆われて晴れた所が多かったものの、10日には台風第15号が再び先島諸島に接近したため、九州や沖縄で激しい雨が降った。

中旬は、初め台風第15号が先島諸島付近を通過して、本州上の秋雨前線の活動を活発化させたため東日本以西で短時間に強い雨の降った所があった。その後は、北日本で寒気の入る日もあったものの、そのほかの所は高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いた。

下旬は、初め北日本や東日本の日本海側で雨が降ったが、西日本以西では晴れた所が多かった。24日～25日にかけては台風第17号が伊豆諸島から房総半島沖を通過したため、伊豆諸島を中心に大荒れの天気となった。その後は、大陸からの移動性高気圧に覆われ晴れた所が多かった。

10月 寒気の南下は、月を通して平年に比べ弱く、月平均気温は全国的に高温となった。

上旬は、南西諸島を除き曇りや雨の日が多かった。東日本と西日本では日本海の前線に向かって暖かい空気が入り、1日～2日は真夏日となり10月の日最高気温の記録を更新した地点もあった。南西諸島は、1日～2日は台風第19号により先島諸島を中心に荒れた天気となった。

中旬は、東日本の太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。その他の地方では高気圧に覆われ晴れた所が多かった。台風第20号は、15日頃から北東進し18日～19日にかけて伊豆諸島南部に接近した。

下旬は、天気は数日の周期で変化し、低気圧の通過後寒気が南下した。特に旬の前半には西日本や南西諸島を中心に一時的に強い寒気が入った。

11月 上旬や下旬は、気温の高い日が多かく、中旬は寒気が南下して気温の低い日が多かった。

上旬は、高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温の高い日が多かった。6日～7日にかけては日本海と本州南岸を低気圧が発達しながら通過したため、東・西日本を中心に大雨となる所があった。また、9日は一時的に冬型の気圧配置となったため、北・東日本の日本海側では雨や雪となった。また、10日には台風第22号が発生した。

中旬は、日本付近に強い寒気が南下して気温の低い日が多かった。また、北日本を中心に冬型の気圧配置が続き、日本海側は曇りで雨や雪の日が多く、太平洋側では晴れの日が多かった。南西諸島は、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。なお、16日に台風第23号が発生した。

下旬は、天気の崩れは小さく、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。しかし、月末には日本海の低気圧が急速に発達して通過したため、北日本を中心に大荒れとなった。また、上空には寒気が入りやすく、大気の状態が不安定となって、日本海側を中心に各地で雷雨となった。

12月 強い寒気が南下し、全国的に気温の低い日が多く、20年ぶりの全国低温となった。

上旬は、2日～3日は北日本に強い寒気が入って、北・東日本の日本海側で大雪となり、4日～5日は日本海と本州南岸を低気圧が発達しながら通過したため、全国的に雨や雪が降った。低気圧通過後は冬型の気圧配置となり、西日本の各地でも積雪となる所があった。

中旬は、11日～14日は冬型の気圧配置が続く中、低気圧が本州南海上から三陸沖に発達しながら進んだため、鹿児島、東京などの太平洋側でも初雪となった。また、低気圧の通過後には非常に強い寒気が入ったため、日本海側の地方で大雪となり、東・西日本を中心に平野部でも積雪となった。17日～19日は真冬並の寒気が上空に南下し、低気圧が発達しながら通過したため、日本海側の地方で大雪や暴風など大荒れの天気となった。また、四国地方や東海地方でも大雪となる所があった。

下旬は、21日に日本付近を通過した低気圧が、22日～23日にかけて三陸沖から北海道の東海上で急速に発達し、上空に非常に強い寒気が流れ込んだ。このため、各地で記録的な大雪や暴風、雷などの大荒れの天気となった。25日～26日にかけても日本海から北日本を低気圧が発達しながら通過したため、北日本や、東日本日本海側で大雪や暴風の大荒れの天気となった。30日～31日にかけては北日本を低気圧が通過し北・東日本の日本海側を中心に雪が降った。

資料：気象庁『気候系監視報告』から作成した。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成17年）

（梅雨入り）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5月 2日頃	5月 8日頃	5月 5日頃
奄 美	5月 5日頃	5月 10日頃	5月 14日頃
九州南部	6月 11日頃	5月 29日頃	5月 29日頃
九州北部	6月 10日頃	6月 5日頃	5月 29日頃
四 国	6月 11日頃	6月 4日頃	5月 29日頃
中 国	6月 11日頃	6月 6日頃	5月 29日頃
近 畿	6月 11日頃	6月 6日頃	6月 6日頃
東 海	6月 11日頃	6月 8日頃	6月 6日頃
関東甲信	6月 10日頃	6月 8日頃	6月 6日頃
北 陸	6月 27日頃	6月 10日頃	6月 6日頃
東北南部	6月 15日頃	6月 10日頃	6月 7日頃
東北北部	6月 25日頃	6月 12日頃	6月 19日頃

（梅雨明け）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	6月 27日頃	6月 23日頃	6月 23日頃
奄 美	6月 27日頃	6月 28日頃	6月 24日頃
九州南部	7月 15日頃	7月 13日頃	7月 11日頃
九州北部	7月 17日頃	7月 18日頃	7月 11日頃
四 国	7月 16日頃	7月 17日頃	7月 13日頃
中 国	7月 18日頃	7月 20日頃	7月 13日頃
近 畿	7月 18日頃	7月 19日頃	7月 13日頃
東 海	7月 18日頃	7月 20日頃	7月 13日頃
関東甲信	7月 18日頃	7月 20日頃	7月 13日頃
北 陸	7月 18日頃	7月 22日頃	7月 22日頃
東北南部	8月 4日頃	7月 23日頃	7月 22日頃
東北北部	8月 4日頃	7月 27日頃	7月 22日頃

資料：気象庁資料による。

2 被害概況

平成17年は、大型で非常に強い台風第14号により各地で暴風と記録的な大雨となり農作物に188億円の被害が発生した。

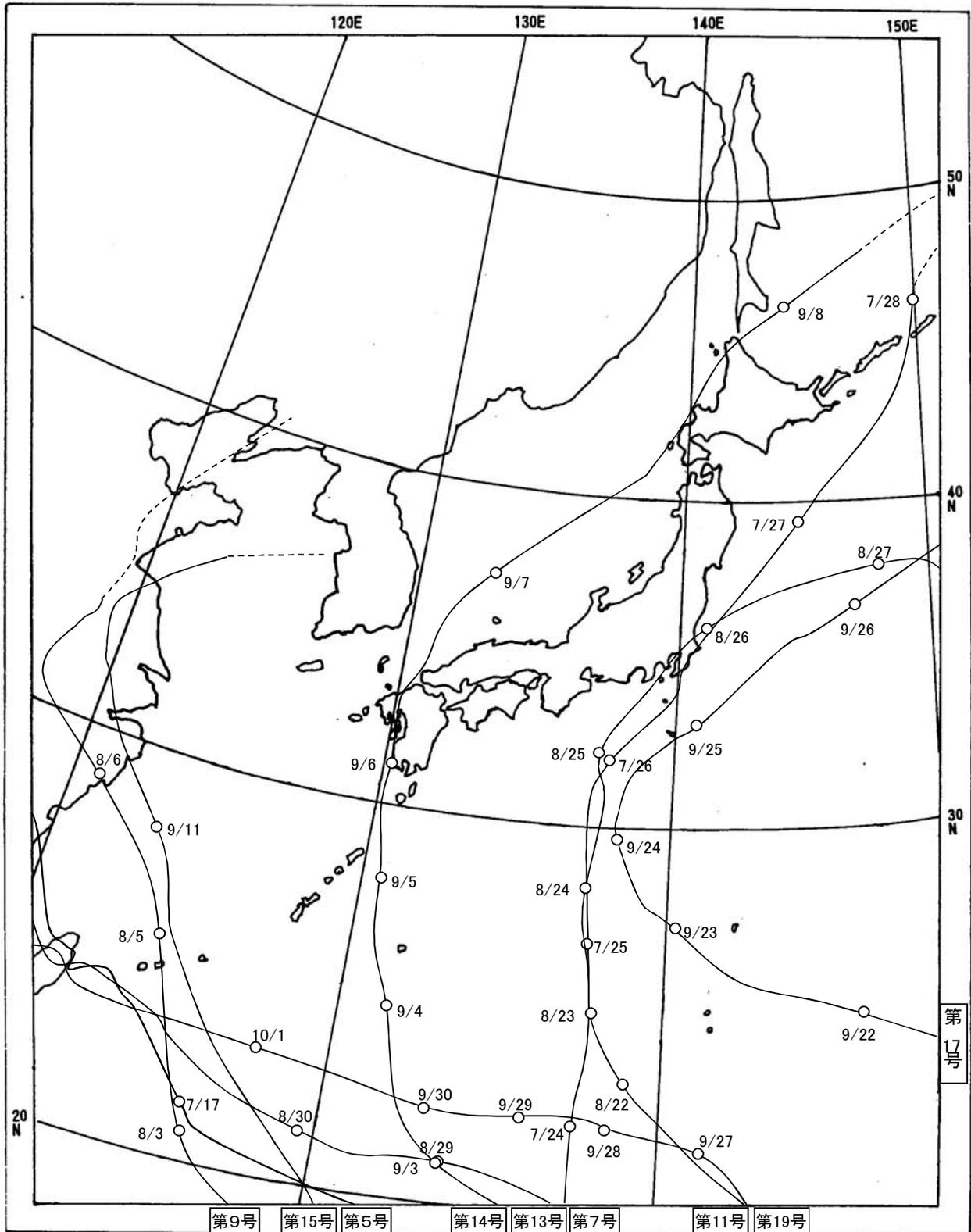
このほか、9月中旬以降にトビイロウンカが局地的に多く発生したことにより52億円の被害が発生した。

なお、発生した主な被害は表2のとおりである。

表2 平成17年に発生した主要災害種類別被害概要（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積 ha	被害見込金額 億円	主な被害農作物	被害発生地域
1月以降の雪害	1月以降	11 000	30	果樹	北海道、青森、秋田、山形、福島
6月4日～5日のひょう害	6月4日～5日	2 300	11	果樹	山形、長野、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、徳島
台風第11号	8月25日～26日	16 700	14	水陸稲、	宮城、茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川、長野、静岡、愛知
台風第14号	9月4日～8日	344 300	188	水陸稲、野菜、果樹、	北海道、東北（宮城）、茨城、群馬、北陸、長野、東海（静岡を除く。）、近畿（大阪、奈良を除く。）、中国、四国、九州、沖縄
虫害 （トビイロウンカ）	9月中旬以降	44 600	52	水陸稲	山口、九州

3 平成17年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



資料: 気象庁資料から作成した。

注 : 1 経路上の印は9時の位置であり、数字は日付を示す。

2 経路の実線は台風を示し、点線は温帯低気圧の期間を示す。